



TITLE:

雜種税ノ分析及其整理

AUTHOR(S):

神戸, 正雄

---

CITATION:

神戸, 正雄. 雜種税ノ分析及其整理. 經濟論叢 1916, 2(4): 481-510

ISSUE DATE:

1916-04

URL:

<https://doi.org/10.14989/126994>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

# 經濟論叢

號四第

卷二第

## 論說

●雜種稅ノ分析及其整理

●奢侈ト貧困

●でがゐるひのひの経済學說三

## 研究

●不換紙幣流通ノ根據ニ就テ

●保險ト偶然性

●本多利明ノ經濟說三

## 雜錄

●英國經濟政策ノ變轉期

●貧民ノ體力ニ就イテ

●英國ノ戰爭利得稅

●本邦私出產ノ死産

●歐洲各國ニ於ケル生活費ノ増加ニ對スル防止策

●郷土ノ經濟の研究

●所有權ノ起源

●紙幣ノ下落

●經濟學讀書會記事

●富田博士ヲ悼ム

法學博士 神戸 正雄

法學博士 河上 肇

法學博士 福田 德三

山口高等商業學校教授 作田 莊一

法學士 小島 昌太郎

講師 本庄 榮治郎

助教授 河田 嗣郎

講師 高田 保馬

法學博士 小川 郷太郎

教授 財部 靜治

助教授 山本 美越乃

法學博士 神戸 正雄

講師 本庄 榮治郎

法學博士 河上 肇

講師 高田 保馬

法學博士 織田 萬

# 經濟論叢

第二卷 第四號

(通卷第十號)

論

說

## 雜種稅／分析及其整理

法學博士 神戶正雄

緒言(一、雜種稅ノ性質、二、雜種稅ノ地位、三、雜種稅分析整理ノ重要)

第一段 雜種稅ノ分析

其一、雜種稅ノ實際的分析(一、雜種稅構成租稅ノ數、二、雜種稅構成租稅ノ關係的地位)

其二、雜種稅ノ學問的分析(一、所得稅、交通消費稅ノ分類、二、直接間接稅ノ分類、三、定率、配賦稅ノ分類)

第二段 雜種稅ノ整理

其一、雜種稅ノ全局的整理(一、雜種稅ノ分解、二、雜種稅ノ淘汰、三、雜種稅ノ統一)

其二、雜種稅ノ各部的整理(一、營業稅、二、使用稅、三、勞働收益稅、四、其他諸稅)

結論(本文ノ要旨)

論說 雜種稅ノ分析及其整理

第二卷(第四號一)

四八一

## 緒言

雜種税トハ(一)特殊租税ノ名稱デ、一ノ地方税デアル。道府縣カライヘパーノ特別税デアリ。<sup>(註一)</sup>市區町村カラシテハ之ニ附加税ヲ課スルコトヲ得ル。<sup>(註二)</sup>(二)固ヨリ此税ガ地方財政ニ取り特ニ重要ナル地位ヲ占メテ居ルトハイヘナイ。<sup>(註三)</sup>ガ(三)併シ其ガ(い)他ノ税ト異ツテ雜然タル無數ノ租税ヨリ構成セラレ、之ヲ分析解剖スルコトガ學問上興味深キ許リデナク、(b)中ニハ地方税トシテ好適ノモノガ存在シ、之ヲ明瞭ニスルコトガ有益デアリ、(ろ)(a)更ニハ又此雜然タルモノヲ整理案排スルコトガ實際上ニモ必要デアルノ故ニ、敢テ茲ニ本研究ヲ試ムル。(b)特ニ又予ハ之ヲ敢テスルガ爲メニ、各府縣税則ヲ一々點檢スルノ煩勞ヲ採ツタ所デアルガ、之ニ於テ其不備ナルモノアルコトヲ一層切實ニ感ジタ。此點カラ見テモ之ガ整理事業ノ重要ヲ認メナケレバナラス。<sup>(c)</sup>加之我國ニテハ學者政治家ガ兎角中央國家ノ大キナ問題ニノミ没頭シテ、小ナレトモ根底ヲ成スヘキ地方問題ヲ等閑視シ去ル傾アルニ對シ、予ガ斯ノ如キ小ナル問題ノ中ノ更ニ微ナル問題ニツイテ研究ヲ試ムルコトノ無意義ナラザルヲ確信スル。<sup>(註四)</sup>

(註一)基礎法律ハ明治十三年四月太政官布告第十六號地方稅規則(第一條)<sup>1)</sup>

(註二)明治四十四年四月法律六十八號市制百十七條四十四年四月法律六十九號町村制九十七條四十四年三月勅令四十三號沖繩縣區制九十五條、三十年五月勅令百五十八號北海道區制八十一條、三十年五月勅令百五十九號北海道一級町村制八十一條、三十五年二月勅令三十七號北海道二級町村制四十條、

(註三)道府縣雜種稅ノ増進傾向及ビ其ノ全租稅並ニ全歲入中ノ地位ノ變遷<sup>2)</sup>

	金 額 (B)		増 率		全租稅中 (C)		全歲入中	
	雜種稅ノ	増進傾向	(基點)	増率	全租稅中 (C)	地位	全歲入中	地位
(1) 明治三六年	六、五七六、三三八		1 (基點)	12.0	12.0	10.0	10.0	
(2) 三七	六、三三三、九三三		0.95	13.0	13.0	11.9	11.9	
(3) 三八	六、三六八、八八九		0.97	13.0	13.0	12.3	12.3	
(4) 三九	七、七〇〇、五四四		1.1	16.9	16.9	12.5	12.5	
(5) 四〇	八、一九六、五一一		1.35	15.0	15.0	10.1	10.1	
(6) 四一	八、〇〇三、九三六		1.31	14.3	14.3	9.1	9.1	
(7) 四二	八、五五五、四九〇		1.30	14.6	14.6	10.1	10.1	
(8) 四三	九、一六八、二五〇		1.35	15.0	15.0	8.9	8.9	
(9) 四四	八、九八八、九一八		1.35	14.8	14.8	2.8	2.8	
(10) 大正元年	九、六五二、六四四		1.47	15.0	15.0	1.6	1.6	

是ニヨリ之ヲ見レバ雜種稅ノ絕對額ハ年ト共ニ増加ノ傾ヲ有テ、十年間ニ約五割ノ増進サヘ示シテ居ルガ、其ノ全租稅及歲入ニ對スル相對的地位ハ近キ十年間ニ大ナル變化ヲ示シテ居ラナイ。相變ラズ全歲入ノ約一割内外、全租稅收入ノ約一割五分内外トイフ見當デアル。尙ホ此ニ道府縣各種租稅ノ關係的地位ヲ示スト左ノ通り<sup>2)</sup>

1) 以下、國家ノ租稅法規ハ大成會發行、日本租稅法令大全ニヨル  
2) 内務省地方局大正二年五月刊行地方財政概算ノ數字ニ基キ計算

論 說 雜種税ノ分析及其整理

第二卷 (第四號 四)

四八四

大正元年ニ於ケル各税收入ノ全租税收入中ノ地位%

(1) 地租割	45.0	(4) 營業税	22.7
(2) 戸數割及家屋税	22.0	(5) 營業税附加税	4.4
(3) 雜種税	1.0	(6) 所得税附加税	2.4
		(7) 其他ノ税	2.5

雜種税ハ斯ノ如ク地租割ト戸數割及家屋税トニハ及ハナイガ、地方營業税國稅營業税附加税、所得税附加税等ニ比シテハ遙カニ重要デ、地方税トシテ三、大税ノ一二數ヘラルコトが出来ル。其ノ雜種税ガ營業税ノ附隨物ノ如ク認メラレツツ尙且ツ事實上其ヨリモ一層重大ナル地位ヲ占ムルノハ、全ク地方營業税ハ商工業ニ課スルモノデアルガ其ノ商工業ノ重ナルモノガ國稅ノ方デ取ラレテ、地方税トシテハ其殘物タル下級ノ小商工業者ノミナ税スルコトナルノニ、雜種税ニハ營業税的ノモノノ外、別ニ使用税ガ最重キヲ成シ、而モ此ガ殆ト專ラ地方ニ任カサレテ居ルコトニ據ルノデアル。(B) 市町村ニ於ケル雜種税附加税ノ地位ハ雜種税本税ガ道府縣ニ於ケル地位ヨリモ一層低ク、又益々低下シツツアル。其絕對額ノ増加モ、亦々極メテ小ナルヲ見ル。<sup>(2)</sup>

雜種税附加税金額 其全租税中ノ地位(%)

(1) 明治三六年	7,111,063	(6) 一	6.3
(2) 三七	7,423,648	(7) 四二	6.1
(3) 三八	6,891,184	(8) 四三	7.3
(4) 三九	7,564,020	(9) 四四	7.4
(5) 四〇	6,860,897	(10) 大正元年	6.5

(註) 予ハ地方税ノ整理ハ普魯西ニ於ケル總ヘテノ財政改革ノ前提ナリ、テフぐないすこノ詞ヲ想起セサルヲ得ヌ。ピーアスモ亦々今ハ地方税問題ヲ以テ國家的大問題トシテ其完全ナル改革が必要也ト論シテ居ル<sup>3)</sup>

3) Rudolf Groist, Die preussische Finanzreform durch Regulierung der Gemeindesteuern. S. 243. Pearce, Municipal rating and the collection of rates. p.87.

## 第一段 雜種稅ノ分析

### 其一 雜種稅ノ實際的分析

雜種稅ハ一種々雜多ノ租稅カラ成立ツテ居ル。(i)法律面ニ依ルト十四種ヨリ成ルトモイヘルガ、(a)此カ列舉的デナク例示的ニナツテ居リ、(b)其モ各地方ニテ取捨ガ出來、(c)各地方ノ事情ニヨリ特段ナル租稅ヲ設クルコトモ出來ル所ヨリ(註)實際各地方ニテ區々ニ亘ルコトナリ、大正二年度ニイテ全國ニ八十五種ノ異ツタモノヲ算スルコトナツテ居ル(註)。復雜至極ノ稅トハナグレバナラヌ。

(註)明治十三年四月太政官布告第十七號地方稅中營業稅雜種稅ノ種類第二條ニ雜種稅ヲ課スヘキ種類ハ左ノ如シトシテ居ル。(一)料理屋待合茶屋遊船宿芝居茶屋飲食店ノ類。尤モ同種營業デハアルガ貸座敷引手茶屋娼妓ニ對シテハ雜種稅ニ依ラズ賦金ナルモノヲ課スルコトナツテ居ル。明治二十一年八月閣令十二號ニコレバ貸座敷引手茶屋娼妓ノ賦金ハ府縣知事ニ於テ適宜ニ之ヲ賦課シ、雜收入ニ編入スヘシトアル。斯クテ各府縣ニハ其々賦金徵收規則ヲモツ。(二)湯屋(三)理髮人(四)傭人受宿(五)遊藝師匠遊藝稼人相撲俳優間藝妓ノ類。(六)市場(七)演劇其他興行遊覽所(八)遊技場(玉突大弓揚弓射的吹矢ノ類)(九)人寄席(十)船舫漁船川船及五十石未滿海船車(馬車人力車荷積馬車荷積大七八八車荷積中小車荷積牛車ノ類)。但シ明治十六年六月内務大藏兩省達乙三十號及ヒ明

治十五年十月内務大藏兩省達乙五十七號ニヨレハ皇族所有ノ車馬官用ノ船舶車馬ハ免稅トナル  
 (十一) 水車 (十二) 乘馬 (十三) 屠畜 (十四) 漁業採藻ノ類。

而シテ其第四條ニハ府知事縣令ハ府縣會ノ決議ヲ以テ第二條類目中ニ於テ賦課スルモノヲ取捨  
 スルヲ得ルコトトナリ、第九條ニテハ右課稅種類ノ外地方特別ノ課稅ヲ要スルモノハ府縣會ノ決  
 議ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシトナツテ居ル。

更ラニ北海道ニツキテハ明治三十四年三月法律三號北海道地方費法二條ニヨリ右府縣稅ニ關ス  
 ル規定ヲ準用スルコトナル。

(註二) 八十五種ノ稅目ハ次項雜種稅ノ學問的分類ノ處ニ詳記ス尤モ其ハ大正二年度ノデアルカラ、其後  
 ニ増減ノアツタコトハ見逃シテハナラス。現ニ予ノ注意スル所ダケデモ、右ニ之ナカリシモノデ最  
 近ノニ増加シテ居ルノガ二三アル。即チ群馬縣ノ玉突臺稅、瓦斯管稅、地中電線路稅、福岡縣ノ瓦斯管  
 稅ノ如キデアル。<sup>(5)</sup>

併シ八十五種ノ構成租稅ガ皆ナ(二)對等ノ價值ヲモツノデハナイ。(イ)其ノ收入金  
 額ノ多少ニヨル關係的地位ヲ示メスト(a)百萬圓以上ナルハ纔カニ車稅、藝妓稅ノ  
 二ノミデ、而カモ此二デ全雜種稅收入金額ノ半分弱即チ四八、二%ヲ占メ、(b)十萬以  
 上百萬圓未滿ナルハ自轉車稅、漁業稅以下ノ十五種デ、其ガ四二、五%(c)其他ノ十萬  
 圓未滿ノモノ六十八種デ漸ク九四%ヲ占ムルニ止マル。中ニハ全國ニ亘ツテ收入  
 金額ノ百萬圓未滿ナルガアツテ、其ガ七ツニモ達スル。視眼鏡稅ノ六圓ニ至ツテハ極  
 端ニ小イ。<sup>(註三)</sup>更ニ(ろ)之ガ行ハルル道府縣ノ多少ニヨリ地位ヲ示スト、(a)全道府縣即

4) 内務省地方局大正二年度道府縣雜種稅一覽ニ基ク

5) 群馬縣々稅賦課徵收規則二十八條ノ四、五、六、福岡縣營業稅雜種稅賦課徵收方法  
 課目課額、



チ四十七地方ニ行ハルルモノハ十種デ、料理屋稅、湯屋稅、理髮人稅、遊藝稼人稅、俳優稅、興行稅、遊技場稅、船稅、車稅、狩獵稅卽是デアル。(b)之ガ反對ニ唯一道府縣ニノミ行ハルルモノガ二十種ニモ上ボリ、(c)全道府縣デハナクトモ大多數ノモノ卽チ四十以上ニ行ハルルガ十一種、(d)一道府縣デハナイガ尙極少數ノモノ卽チ二以上五以內ノ其ニ行ハルルガ十八種、(e)其餘ノ二十六種ハ六以上三十九以內ノ道府縣ニ行ハルル所デアル。<sup>(註四)</sup>以テ如何ニ本稅ガ各地方デ區區ニ亘リ且ツ收入額ニ大小ノ差ノ甚シキモノアルカラ知ルヘキデアル。

註三(1)百萬圓以上 (a)車稅 三、三三、一三二 (b)藝妓稅 一、三三、一四七 四、九〇、六八四 四六・一%

(2)十萬圓以上百萬圓未滿

(a)	白轉車稅	七、五、八三三	(i)	法人建物稅	三、七、一〇、七
(b)	漁業稅	六、三三、〇〇〇	(j)	理髮人稅	一、八、四、四八
(c)	船稅	四、三、八二六	(k)	興行稅	一、九、一、七
(d)	演劇稅	三、七、一七七	(l)	飲食店稅	一、一、八、八四
(e)	屠宰稅	三、六、八八九	(m)	建物賃貸稅	一、一、四、四六
(f)	不動産取得稅	二、六、三三二	(n)	竹木材川下稅	一、五、三三五
(g)	水市稅	二、六、三三〇	(o)	西洋形船稅	一、〇、〇、八八
(h)	牛馬稅	二、四、七七七			四、三、七、八二三 四三・三%

(3)十萬圓未滿

(a)	採堀稅	五、三、	(c)	貸席稅	三、四、	(e)	遊船宿稅	六、	(g)	視眼鏡稅	六、
(b)	網稅	三、	(d)	石類採取稅	三、	(f)	屠手稅	二、			
內、百圓未滿											

論說

雜種稅ノ分析及其整理

第二卷 (第四號七)

四八七

(註四)(1) 唯一ノ道府縣ニ行ハルモノ

奴夫稅(北海道)屋手稅(島根)潛水器稅(靜岡)後網場稅(岐阜)工場稅(群馬)所得稅(京都)  
探規稅(滋賀)駄賃條稅(大分)石類採取稅(秋田)石灰電稅(高知)炭鹽稅(青森)翹室稅(福  
岡)視眼鏡稅(福岡)易占稅(高知)生洲鹽稅(長崎)段別稅(岡山)製紙釜稅(山梨)立木伐採  
稅(宮崎)鴨網稅(福岡)養蠶稅(岐阜)

(2) 四十以上ノ道府縣ニ行ハルモノ 藝妓稅、遊藝師匠稅(以上四六)頒樂稅、法人建物稅(以上四五)相撲稅、演劇稅、水車稅  
(以上四四)遊覽所稅、屠宰稅(以上四三)飲食店稅、市場稅(以上四一)

(3) 二以上五以內ノ道府縣ニ行ハルモノ 溫泉場稅、貸金稅、建物建築稅、水室稅(以上五)軌道稅、屠宰場稅、倉庫稅、火葬  
場稅、珊瑚樹採取稅(以上四)橋稅、鶴稅、竹木材流業稅、水碓稅、運送夫稅、貸席  
稅(以上三)駕籠稅、雇人稅、酌人稅(以上二)

## 其二 雜種稅ノ學問的分析

八十五種トイヘバ如何ニモ復雜デアルガ之ヲ租稅學上ヨリ分類スレハ餘程簡  
單ニスルコトカ出來ル。(一)先ツ之ヲ收益稅所得稅財產稅交通稅消費稅ノ分類法<sup>6)</sup>ニ  
從テ分析シテ見ルト(い)左ノ如クデ此雜種稅ガ殆ンド其ノ總ヘテノ種類ノモノニ  
亘ツテ居ルコトヲ見出ストキハ其ガ如何ニ雜然タルモノナルカヲ知ラナケレバ  
ナラス。且ツ又日本ノ國稅ニ見ルコトヲ得ザル資本利子稅ト勞働收益稅ト此ニ  
發見スルニ於テ大ニ興味ヲ感シナケレバナラス。

(I) 所得稅——所得稅(註二)

(II) 收益稅 (A) 地租——段別稅

6) Schäffle, Die Steuern. J. s. 58-9. Eheberg, Finanzwissenschaft. 9 Aufl. s. 194-5.  
7) 京都府郡部府稅賦課規則 27. 28. 條(以下賦課規則ヲ賦稅ト略ス)  
8) 群馬縣稅賦課徵收規則 21. 岩手賦規 20. 秋田賦規 43.  
9) 群馬、岩手、同上、宮城賦規 18 條ノ一 10) 群馬、岩手同上  
11) 秋田賦規 29. 栃木賦規 11. 京都郡部賦規 5. 12) 群馬賦課徵收規則、10

(B) 家屋税——建物賃貸税(註二)

資本利子税——貸金税(註三)

(D) 營業稅(註四) — (イ) 料理屋稅

水磨稅、鰲稅、工場稅、器具機械稅、藍靛稅、石灰窯稅、炭窯稅、麴室稅、電柱稅、眠眼鑛稅、水壘稅、生洲籠稅、氣力電力車稅、製紙釜稅——計四十四種

上勞働收益稅——理髮人稅、遊藝師匠稅、遊藝稼人稅、相撲稅、俳優稅、幫間稅、藝妓稅、妓夫稅、仲仕稅、屠手稅

竹木材流業稅(註<sup>1</sup>)、役稅(註<sup>2</sup>)、駄賃稼稅、運送夫稅、酌人稅——計十五種

(二) 交通稅——不動產取得稅(註十)

(IV) 消費稅  
A 狹義消費稅——屠宰稅(註十二) 竹木材川下稅(註十二) 建物建築稅——計三種

(B) 使用税(註十三)——船税、車税(註十四)、水車税、乗馬税、日本形船税、西洋形船税、自轉車税、自動車税、駕籠税、税、牛

而シテ(ろ)右諸税ノ關係的地位ハ左ノ如クデ、税目ヨリイヘバ營業税のナルモノ最

多く、過半ヲ占ムル所デハアルガ、金額ヨリイヘバ使用税ガ第一位ニ居リ、優ニ過半

ヲ占ムル見ル。即チ雜種稅ガ稅目カラシテモ營業稅的ノモノガ最多ク、法律ニテモ

營業稅ノ附隨的ニ規定セラレ（註五）實際ニモ此ト並ビ稱セラレ、市區町村ニ於テ釐

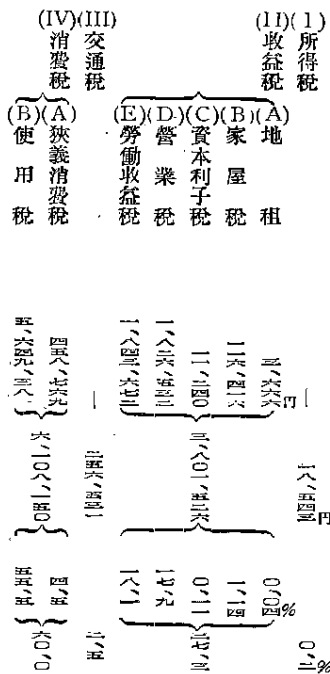
業割トイフ中ニ雜種稅附加稅ヲモ含メル程（註十八）デアルカラ、一見此ガ營業稅的ノモ

ノナルガ如クニ見ユルニ拘ラズ、事實然ラザルコトハ最注目ニ値スル<sup>(註九)</sup>而シテ

其使用税ノ方ガ營業税的ノモノヨリモ金額ニ於テ重大トナツテ居ルノハ、一ハ營

- 13) 三重縣々々税賦課方法 5 宮城縣漁業稅採藻稅賦課規則 5. 岩手縣漁業稅採藻稅賦課規則 3 條ノ一 京都府郡縣規則 5. 14) 山形縣稅賦課徵收規則 4. 15) 佐賀縣稅規則 14. 16) 大分縣稅賦課徵收規則 26. 島根縣規則 11. 17) 廣島縣規則 8. 18) 京都府郡縣規則 5. 高知縣規則 1. 福井縣規則 25. 德島縣規則 2. 19) 靜岡縣稅營業稅雜種稅課目課額 廣島縣規則 8. 20) 鹿兒島縣規則 18. 鳥取縣規則 27. 德島縣規則 54. 21) 大分縣稅賦課徵收規則 15. 宮崎縣稅賦課徵收規則 2.

業稅的ノモノノ方ガ其大ナルハ國稅營業稅ト道府縣營業稅トニ取ラレテ漸ク其殘屑ヲ保ツニ止マルノニ因ルケレトモ、又一ニハ使用稅ノ方ガ殆ンド專ラ地方雜種稅ノ處ヘ任カサレタルニ因ル。



(註一) 雜種税トシテノ所得税ハ京都府ノミニ行ハルル所デ主トシテハ國税所得税ノ免稅點以下ニシテ所得三百圓以上ノ者ニ課スルノデアルガ併シ所得稅法施行地以外ニ於テ支拂テ受クル公債社債ノ利子國税所得税ノ課セラレザル法人ヨリ受クル配當金モ亦タ此課税ニ從フコトナツテ居ル。(7)

(註二) 之ニツキテハ營業ト非營業トナ間ハズトノ明文ヲ有スルガアル例之群馬、岩手、秋田ノ如シ。然シ此明文ハ本税ノ性質上不要デアル。又此ニ依ル課税收益ニ最下限ヲ定ムルガアル例之群馬(年三十圓以上)岩手(年二十圓以上)。(8)

22) 京都府 府部營業稅雜稅課目課額、秋田賦規 45 條ノ二、奈良賦規 22 條ノ二  
23) 長野縣 縣賦課徵收規則 17、大分縣 縣賦課徵收規則 15、岐阜縣 縣賦規則 10、  
根拠規 4 岐阜縣規 8、岡山縣規 4、奈良縣規 19 條ノ一、愛媛縣規 10。  
24) 靜岡縣規 2、25) 高知縣規 1、福井縣規 22、滋賀縣規 30、福岡縣營業稅  
雜稅課目課徵收方法 15、佐賀縣賦規則 14、鹿兒島縣 3 島取縣規 4、德  
島縣規 2、山形縣縣賦課徵收規則 4、大正五年度青森縣縣賦課徵收規則 4。

(註四)此ニ營業稅トシテ舉クルモノノ中ニハ(a)各營業ノ全體ニ課スルモノト(b)各營業ノ或重要ナル材料ニ課スルモノトアル。後者ニ至テハ一ノ使用稅トイツテモ其キヤウニ考エラルルガ予ハ此ハ消費稅ノ一タル使用稅ト見ルヨリハ、營利稅ノ一タル收益稅ノ其又一種タル營業稅ノ特殊ノモノトスルヲ至當ト信ズル。現ニ普通ノ營業稅デモ外形の標準ニヨツテ課スルモノニ至ツテハ、營業ノ全體ニ課スルトイヒツツ矢張り必スシモ營業收益ニ影響スヘキ總ヘテノ外形の標準ニ依ルノデハナク其ノ重ナル二三ノモノヲ選ムコトトナル。其ノ一ニ依ルト二三ニヨルトノ間ニハ根本的ノ差異ハナイコトニナル。故ニ之ヲ同種類ニ入ルルモ不當デハナイ。且ツヤ夫ノ使用稅ノ物件ガ生産用タルコトモアルニセヨ、單ニ生産用ニミ充テラルルノデハナク消費ノ爲メノ使用ニモ充テラルルコトアルモノト異ツテ、此方ハ專ラ營利ノ爲メニ即チ收益ヲ舉クルガ爲メニ使用セラルルモノデアルカラ、彼ト此ト分離シテ、此ヲ營業稅ノ中ニ入ルルヲ至當トスル。

(註五)市場稅ハ一ノ營業稅アル。市場ノ開設者(秋田)經營者(栃木)又ハ營業者(京都)ニ課スルコトナツテ居ル。<sup>11)</sup>

(註六)漁業稅ハ營業者タラザル者ニモ課セラルルコトニハナルガ、此ノ如キ明文アルモノ例之群馬デ遊漁ト職業トノ別ナク之ヲ賦課トスル見ニ角繼續的狀態ニ對シテ賦課スルヲ通例トスル。隨テ(a)定時ニ賦課スルノガ通例デアルガ、唯ダ此場合ニモ特殊ノ漁業ニツイテハ其捕獲ノ都度之ヲ課ストスルモアル。例之捕鯨ニ關シテ三重、宮城、岩手、鯉、臺、綱類ニツキテ京都ノ如シ<sup>13)</sup>或ハ山形ノ如ク一般ニ隨時徵收スルノヲ原則トスルモアル。但シ鹹水漁業及淡水漁業稅中築ヲ除ク<sup>14)</sup>或ハ課稅法ヲ基トシテ二ニ分チ歩稅ニ屬スルモノハ隨時賦課スルモアル。例之佐賀<sup>15)</sup>斯ク課稅方法ニハ種々アルガ大體營業者ニ課セラルルモノデアリ、少クトモ或繼續的業態ニ課セラルルノ故ニ營業稅ニ加ヘテ置ク。

26) 奈良賦稅規 22. 靜岡賦稅規 24. 三重縣稅賦課方法 15. 岩手賦稅規 18 條ノ二、  
岐阜縣稅賦課則 10. 青森縣稅賦課徵收規 4. 27) 熊本賦稅規 8. 山形縣稅賦課徵  
收規 5. 佐賀賦稅規 14. 福井賦稅規 13. 宮城賦稅規 13. 和歌山賦稅規 22. 群馬  
縣稅賦課徵收規 10. 秋田賦稅規 29. 栃木賦稅規 11. 岐阜縣稅賦課則 21.  
28) 奈良賦稅規 10. 愛媛賦稅規 9. 東京府市部稅賦課規 2. 東京郡部稅賦課規 2. 29) 福  
島賦稅規 10. 30) 茨城賦稅規 36. 宮崎縣稅賦課徵收規 23. 京都郡部稅賦課

註七 理髮人税ニツキテハ、多クバ營業税ト稱スルコトヲ得ルガ店舖ヲ開カズ單ニ勞働ヲ賣ルニ過ギ

サルモノモ含ム故ムシロ之ヲ勞働收益税ニ入レタ。例之大分ニテハ理髮人ハ一定ノ營業場ヲ有ス  
ルト否トニ關セズ獨立シテ營業スルモノハ總ヘテ一戸ト見做ストシ、島根ニテハ床場ニテ業ヲ爲  
スモノト床場外ニテ爲スモノトナ區別シテ課税スル<sup>16)</sup>

註八 竹木材流業税トイフハ、廣島ノ例ニ依ルト、木流業年税一人ニツキ六十錢トアツテ、全ク木流勞働  
者ニ課スルモノデアル<sup>17)</sup>

註九 筏税ノ中ニツキ(a)特ニ京都、福井、高知、德島等ノハ寧ロ後ニイフ竹木川下税ト均シク消費税ト見  
ルコトガ出來ル。例之京都ニテハ流出ノ都度筏主ニ賦課スル。高知ニテハ川流許可ノ時ニ賦課スト  
ナル。福井モ此ト類似ノ規定ナモチ、德島モ此税ヲ隨時税トスル然ルニ(b)多數ノ縣ノ筏税ハ筏乘ニ  
課スルノデアルカラ、寧ロ之ヲ勞働收益税ニ入レタノデアル。例之靜岡、廣島<sup>18)</sup>

註十 不動産取得税ハ登記アルダケデハ登録税ノ附加税ノ如クニモ見ユルガ、取得サルルモノニハ登  
録税ニ關係ナキモアルカラ、全體トシテ之ガ附加税トハイハレナイ。然レバ府縣ニヨツテハ登記ナ  
經タルモノハ登記價格、登記ナキモノハ賣買價格賣買ニアラサルモノハ時價ニヨルトイフ規定ナ  
設クテ居ル。例之鹿兒島、德島、鳥取<sup>20)</sup>或ハ登記ノ日、登記ナキモノハ届出ノ日、又ハ不動産取得ノ日ニ賦  
課ストスルモアル。例之、大分、宮崎、尤モ府縣ニヨツテハ單ニ登記價格ニヨルトスルモアル。例之京都、  
奈良、秋田<sup>22)</sup>

註十一 屠宰税ガ消費税タルコトハ各府縣税則ヨリ斷定スルコトガ出來ル。但シ中ニハ(a)屠殺前ニ豫  
定頭數ニヨリ課ストスルガアリ。例之長野、大分、岐阜等<sup>23)</sup>或ハ屠殺後一定期ニ即チ毎月屠殺ノ分ナ  
翌月ニ課スルトスルモアル。例之靜岡<sup>24)</sup>或ハ屠殺毎ニトカ、單ニ届出ノ時トカ又ハ隨時トカ定ムル  
ガアル、此ガ最多イ。<sup>25)</sup>

31) 京都府部賦規 5. 栃木賦規 11. 宮城賦規 19. 條ノ二、高知賦規 8. 和歌山賦規 22. 福井賦規 13. 滋賀賦規 32. 條ノ二、岐阜縣稅規則 54. 石川賦規 24. 山形縣稅賦課徵收規則 20. 東京府部賦規 13. 大正五年香川縣規 29. 岡山縣稅賦課徵收規則 29. 群馬縣稅賦課徵收規則 24. 奈良賦規 21. 愛媛縣稅賦課徵收規則 13. 大分縣稅賦課徵收規則 28. 大正五年青森縣稅賦課徵收規則 13. 宮崎縣稅賦課徵收規則 28. 31) 宇治山田市附加稅賦課徵收規程 8. 35) 本多精一氏地方財政問題、188頁以下

〔註一〕竹木材川下税が消費税タルコトモ略ホ明デアル。川流スル木材ノ所有者ニ其木材ヲ標準トシ課  
スルトイフノハ例之奈良三重靜岡デ岩手河川使用ノ許可ヲ受ケタル際定メタル流材ノ種類及員  
數ニヨリ賦課ス岐阜(屈出ノ日ヲ以テ期日トシ豫定ノ日數又ハ員數ニヨリ賦課ス)青森納税義務ノ  
生シタル時ハ一時ニ之ヲ賦課ス等ニ至テハ文句ハ異ツテ居ルガ趣意ハ同デアル。<sup>263)</sup>

〔註二〕使用税ハ凡ヘテ使用者ニ賦課スルコトナルヘキモノデアルガ(2)通例所有者ニ賦課スルコ  
トニナツテ居ルノハ全ク徴收ノ便カラ來テ居ル例之熊本山形佐賀福井宮城秋田栃木岐阜和歌山  
群馬<sup>27)</sup>或ハ特ニ規定スルモノノ外ハ所有者ニ賦課ストスルモアル。奈良愛媛東京<sup>28)</sup>或ハ使用者又  
ハ所有者ニ賦課ストスルモアル。例之福島<sup>29)</sup>

〔註三〕四船車税ニツイテハ(a)或ハ特ニ其所有者ニ賦課ストスルモアリ例之茨城船ニツイテハ宮崎(b)  
或ハ却ツテ使用人ニ課スルモアル例之京都ノ如シ<sup>30)</sup>

〔註四〕五法人建物税ハ税ノ性質上、使用人タル法人ニ課スルコトトナルヘキデアル。物件税ハ所有者ニ  
課スルノ原則ヲトル處デモ、之ニツイテハ例外ヲ定ムルコトトナル。此法人納税ヲ明文ニモツハ京  
都以下頗ル多イ然シ單ニ法人ノ使用スル建物ニ賦課ストイフモアルガ<sup>31)</sup>實際ニハ使用人ニ課スル  
コトトナルデアラウ。

〔註五〕六此ハ備主ニ賦課サルルコトトナル。例之宮崎縣<sup>32)</sup>

〔註六〕七上記地方税規則參照。

〔註七〕八例之宇治山田市(營業割ハ縣税ニ附加スルモノハ、縣税賦課期日現在ノ營業税額雜種税額ニヨ  
リ課率ノ全額ヲ賦課ス)<sup>34)</sup>本多氏ノ説明ハ此點ヲ無視サレテ居ル<sup>35)</sup>

〔註八〕九小林博士ガ日本ノ地方課税ヲ土地ノ負擔スルモノ、家屋ノ負擔スルモノ、營業ノ負擔スルモノ、  
所得ノ負擔スルモノ、其他ノ負擔スルモノト分類シテ雜種税ヲ營業ノ負擔スルモノノ中ニ入レテ

36) 小林博士地方財政學 478.頁  
37) 小林博士同上 479.  
38) Nitti, Principes p. 322. Parieu, Traité I. p. 9-10. Garnier, Traité p. 52. 95  
&c. Neumann, Die Steuer und das öffentliche Interesse. S. 427 ff. Wagner,  
Direkte Steuern im 'Schönberg' schen Hb. 4. Aufl. III 1. S. 252. Derselbe,  
Finanzwissenschaft. 2 Aufl. II. S. 239. Ebeberg, Art. Steuern im 'Conrad'  
schen Hwb. 2 Aufl. VI. S. 1124. 3 Aufl. VII. S. 959. Heckel, Steuer im  
Elster' schen Wb. 2 Aufl. II. S. 1025.

居ラルルノハ當テ得ナイ、又府縣營業税雜種税及其附加税タル營業割ハ概シテ小資本及小收益ノ雜種職業税タリトイハルルノモ精確デナイ。

更ニ(二)直接及間接税ノ分類法ニ從ツテ雜種税ノ分析ヲ試ムルコトハ有益ノ事業デアルガ、元來此分類法ニハ異見解ガ多クアリ、歸一シテ居ラヌカラ、暫ラク最多數學者ノ探ル所ノ二見解ニヨルコトトシテ、(一)臺帳税從率税ノ意義ニ於ケル見解ヨリスレバ雜種税ハ明瞭ニ直接税ニ屬スルモノト間接税ニ屬スルモノトニ分タレテ、其結果ハ間接税ニ屬スルモノガ少クトモ或方法ニヨレバ、全體ノ約三分ノ二ヲ占ムルコトトナル。(ろ)負擔ノ直接間接詳クイヘバ納税義務者ト擔税指定者トノ一致ト否トニ依ルノ區別方法ニ從ヘバ雜種税ハ大體直接税ニ屬スルコトトハナルガ轉嫁關係不明ノ爲メ直接税ニモ間接税ニモ入レ難キモノ、生ジ且ツ、間接税ニ屬スルモノヲモ多少生ズルコトトナル。孰レニセヨ法律ガ雜種税ヲ凡ヘテ直接税ト爲スノハ、當テ得ナイ。即チ左ノ如クデアル。

- (い) 臺帳税從率税ノ意義ニテ  
(a) 使用税ヲ從率税トスレハ 七・五%  
(b) 使用税ヲ臺帳税トスレハ 九・〇%  
(ろ) 直接間接負擔ノ意義ニテ  
(1) 直接税ニ屬スルモノ 七・五%  
(2) 間接税ニ屬スルモノ 九・〇%

39) Mill. Principles Bk. V. ch. III § I. Wagner, Art. Direkte Steuern im Schönberg'schen a. a. O. S. 252. Derselbe, Fw, 2 Aufl. II. S. 237-8. Rau, Grundsätze der Fw. 5 Aufl. I. S. 443. Leslie in Cobden Club essays. 2nd Series. p. 192. Kaizl, Fw. (deutsch) II S. 163-6. Ehoberg, Fw. 9 Aufl. S. 190. Helförich, Art. Allgemeine Steuerlehre im Schönberg'schen a. a. O. 2. Aufl. III. S. 163. Schall, Art. Allgemeine Steuerlehre im Schönberg'schen. a. a. O. 4 Aufl. III. Ab. I. S. 192. Roscher, Fw. 5. Aufl. I. S. 192. Bischof, Fw. S. 77-8.  
40) 三重縣々税賦課方法 6. 8. 滋賀賦規 18. 宮城賦規 15. 宮崎縣稅賦課徵收規則 12. 13. 靜岡賦規 30. 大分縣稅賦課徵收規則 16. 和歌山賦規 23. 鹿兒島賦規 9. 10. 熊本賦規 9. 10. 奈良賦規 13. 愛媛賦規 14. 15. 新潟賦規 10. 山梨賦規 17. 18. 山形縣稅賦課徵收規則 24.



(III)(II) 間接税ニ屬スルモノ  
交通税

六・五

九・〇

四・一〇(註二)(註三)

二・五

(註二〇) 不動産取得税ニ至テハ無償特ニ相續ノ場合ハ免ニ角有償ノ場合ニハ轉嫁關係ハ不明ナルコトガアル。取得者ガ負擔スルトハ限ラナイ。賣手ニ於テ負擔スルコトモアリ得ル。大體ニ於テ交通税ハ轉嫁不明ノ税デアル。

(註二一) 明治二十九年三月内務省告示三十號沖繩縣區制ノ直接税間接税類別、明治三十二年六月内務省告示、六十九號府縣制及郡制中直接税ノ種類、明治三十二年九月内務省告示、九十六號北海道區制及町村制中直接税間接税ノ類別、明治四十五年五月内務省告示四十三號市制町村制中直接税及間接税ノ種類

(註二二) 狹義消費税中建物建築税ヲ除キタルモノナ此ニ計算ス。

右ノ外(三)精密ナル數字の關係ヲ示スコトハ材料ノ不足ノ爲メニ出來ナイガ、雜種税ノ大部分ガ定率税デアルノニ、其一部ノモノガ府縣ニヨツテハ市町村ニ對スル配賦税トナツテ居ルコトハ注意スルニ足ル。(註二十三)

(註二三) 嚴格ナル意義ニテハ配賦税トイヘナイガ配賦税的ノモノトイフコトガ出來ル。府縣ニテ平均課率ダケヲ定メテ各市町村ノ負擔總額ヲ配當シ實際ノ税率ノ等差ハ市町村ニ任カスノゾアル。

## 第二段 雜種税ノ整理

### 其一 雜種税ノ全局の整理

41) Heckel, Lehrbuch I. S. 141-2. Derselbe, Steuer, im Elster'schen Wb. 2. Aufl. II. S. 1026. Stein, Lehrbuch 5. Aufl. II I S. 442-7. Roscher, a. a. O. I. S. 357-63. Rau, a. a. O. I. S. 444-5. Wagner, Fw. 2. Aufl. II. S. 706-16. Umpfenbach, Fw. 2. Aufl. S. 205-6. Pfeiffer, Die Staatseinnahmen. II. S. 72. Conrad, Grundriss. III. Teil. Fw. 2. Aufl. S. 19-20. Eheberg, Fw. 9. Aufl. S. 192-3.

(一) 上記ノ如ク雜種税ガ實際八十五種ニモ上ホリ、學問的ニ分析シテ多様ノモノガ之ニ屬スル所也。<sup>(註二)</sup>トスレバ、之ヲ雜種税トイフ科目トスルコトハ適當デナイ。宜シク性質ニ基キ分析ヲ行ツテ其々ノ名目ノ下ニ分屬セシムヘキモノデアル。夫ノ各税ヲ凡ヘテ維持スルトシテ、少クトモ之ヲ所得税、地租、家屋税、資本利子税、營業税、勞働收益税、交通税、使用税、消費税位ニハ分類スヘキモノデアル。<sup>(註三)</sup>斯克現在ハ多様ナルモノガ一目ニ入レラレテ居ルカラ、ツイ之ヲ上ニモ記ス如ク、凡ヘテ營業税的ノモノト誤解シタリ、之ヲ總ヘテ直接税ニ屬セシメタリスルコトニナル。此直接税間接税ノ區別ニツイテハ、少クトモ如何ナル意義ヨリシテモ直接税トイフヘカラザルモノヲ其直接税中ヨリ除外スヘキモノト思フガ、此ヲ明ニスル爲メニモ、先ツ以テ雜種税ヲ適當ノ分科ニ分屬セシムルコトト爲スヘキデアル。特ニ或地方ニテ雜種税ニ入レラルル税ヲ、他ノ地方ニテ之ヨリモ離レテ特別税ト爲ス<sup>(註四)</sup>ガ如キコトモ、調査及研究上租税ノ概察ヲ困難トシ、誤解ヲ招クコトトナル。此モ畢竟ハ雜種税トイフガ如キ名稱アルヨリ起ツタ事デアル。此點カラ見テモ雜種税ノ整理分屬ガ必要デアル。

(註一) 日本ノ雜種税ニ該當スルモノハ外國ニテハ日本程ニ複雑ナルモノデナイ。又相當ニ整理分屬ガ

行ハレテ居ル例之普魯西デハ縣ハ所得稅ト物稅トノ附加稅ヲ有ツノミデアル。<sup>1)</sup> 耶ハ此ト類似ノモノノ外ニ<sup>2)</sup>土地ノ移轉稅<sup>3)</sup>旅館居酒屋及火酒酒精小賣營業免許稅<sup>4)</sup>大稅ノ三ヲモツ市町村ニテハ雜種稅ニ當ル稅トシテハ<sup>1)</sup>麥酒稅<sup>2)</sup>娛樂及奢侈稅娛樂稅劇場切符稅大稅ふらんくふるさノ馬稅<sup>3)</sup>不動產移轉稅土地增價稅<sup>4)</sup>酒類營業免許稅ニ止マル。<sup>5)</sup> 英國デハ諸多ノれーミガアルが就中ぶーあれーミガ他ノモノノ標準トナル。漸次れーミ以外ノ租稅的ノモノガ發達シテ來ツツアルコト後ニイフ如クデアルが其ハ重キヲ成サズ。數モ少イ。倫敦デハ又諸多ノれーミガ一八八九年ニぜれらるれーミニ統一セラレダ。<sup>6)</sup> れーミトハ課稅財產ノ純年價值ニ課スルモノデアルが詳シクイフト不動產又ハ其收益價值ノ上ニ課セラルルモノデアルカラ此ニイフ雜種稅的ノモノハ殆ト之ニナイ。佛國デハ縣デハ租稅收入トシテハ殆ト全ク國稅ノ附加稅ニナル。市町村ニハ特別稅ガ多々アル。<sup>7)</sup>

(註二)小林博士ガ雜種稅ノ中カラ店舗營業的ノモノヲ除ケバ殘ハ勞務及用品稅トナルトイハレ、此ガ雜種稅ノ有ツヘキ適當ノ範圍デアル。名ハ職業稅及用品稅トシテモ可トイハルノハ、雜種稅ノ内容ガ此以外ニ出ルコトヲ等閑視サレタルヨリ生シタル誤ノ結論デアル。

(註三)雜種稅ノ中ニ段別稅流業稅採藻稅ガアルノニ北海道ニテハ北海道地方邊法二條ニヨリ反別割水產稅ヲ雜種稅外ノ特別稅トシテ居ル。又道府縣ト市町村トノ間ノコトデアルカラ止ムヲ得ストモイハルルガ京都府デハ特別所得稅ヲ雜種稅トシテ居ルノニ例之字都宮市デハ之ヲ雜種稅外ノ特別稅トシテ採用シ(一箇年二百五十圓以上ノ所得アルモノニシテ所得稅ノ賦課ヲ受ケザルモノノ課ス)水戸市ニテモ同様デアル。(一箇年百八十圓以上ノ所得者ニシテ所得稅法ニヨリ納稅スルモノヲ除クニ課ス)隨ツテ雜種稅及其附加稅ト雜種稅外ノ稅トハ別異ノ種類ノモノト解スルノハ誤デアルコトニナル。

- 1) Theisen, Die Reichs-, Staats- und Kommunalabgaben. S. 89.
- 2) Theisen, ebenda. S. 85.
- 3) Klose, Die Finanzpolitik der preussischen Grossstädte. S. 138-9.
- 4) Department of Commerce and Labor, Municipal taxation in European Countries. p. 71.
- 5) Pearce, l. c. p. 8. 6) Department of Commerce and Labor, l. c. p. 72.
- 7) Colson, cours d'économie politique. V. p. 264-5

(二) 次ニハ雜種税ニ屬スルモノガ餘リ多キニ過クルノデハナイカトイフコトガ一問題デアル。勿論地方税ハ必スシモ全國整一トスヘキモノトハ限ラナイ、各地方ノ事情ニ應シテ多少ノ相違アルコトガ當然デアリ、隨ツテ多樣ナルモノノ存スルコトハ免レナイシ、特ニ小收額ヲ擧クルカ如キ税目ハ到底國税ニハ不適當デアルカラ自然之ガ地方税ニ任カサルルコトトナリ、此點カラシテモ勢ヒ地方特別税ガ多數ノ小税目トナル傾ハ否ムコトヲ得ナイ、<sup>(註四)</sup>ガ唯ダ現在見ルカ如キハ餘リニ小サナモノヲ餘リニ雜多ニモツコトニナツテ居ル。デ少クトモ過小ナル税目ダケハ排除スルヲ選ブヘシトスル。其ニツキ財源補充ノ如キハ甚シキ雜事デアルマイ。

(註四) 本多氏ハ雜種税多キニ過クルノ故ニ整理ヲ減少シ、之ニヨリ收税額ヲ失フモ他ノ税源ニヨリ充タサンコトヲ計レトイハルルガ氏ガ如何ナル度ニ之ガ減少ヲ企圖サルルノカハ不明デアアル。予トシテハ先ツ地方税目ノ多クナルノハ止ムヲ得ザル勢ト認メ、唯ダ餘リニ小サナモノダケヲ淘汰セヨトイフ位ニ考ヘテ居ル。恐ラク予ノ淘汰ハ氏ノヨリハ小ナル程度ト想像スル。

(三) 又如何ニ地方税ハ地方事情ニ應シテ各別異ノモノヲ採ルノ避クヘカラサルモノガアリトハイヘ、現在ノ如ク餘リニ各地區々ニ亘ルノモ決シテ良クナイ。税種ニツキテモ現行法ノ指定スルモノハ最早少キニ過クルカラ、時勢ニ應シ且ツ各地ノ實際ヲ斟酌シテ書キ加フルコトガ必要デアリ、大抵ノモノハ網羅シテ、此間ニ各

8) 小林博士前掲 492.  
9) 宇都宮市特別所得稅條例 2.  
10) 水戸市特別所得稅條例 1.  
11) 本多氏前出 114-7, 120.

地ニ自由選擇ノ餘地ヲ與エ、而シテ其等ノモノノ課稅方法ニツキテ國家的ノ標準ヲ示シテ據ル所アラシムルガ肝要デアル。<sup>(註五)</sup>其ノ自由選擇ノ餘地ヲ與フルハ畢竟各地ノ事情ニ適應セシメンガ爲メデ、課稅方法ノ標準ヲ定ムルノハ各地方内部ニ於テ及各地方間ニ於テ出來ルダケ公平ナル課稅ヲ得セシメンガ爲メデアル。又稅ニヨツテハ制限率モナクテハナラナイ。

(註五)地方團體ノ課稅權ハ唯國家ノ承認又ハ委任ニ基クカラ國家が指示スルノニ差支ナキノミナラズ又ムシロ必要デアル。尤モ絕對ノ拘束ハ宣シクナイ。或度マデ地方事情ヲ斟酌シテ自由ノ餘地ヲ與フヘキモノデアル。あんりだるくれガ諸多ノ入市稅ニ於ケル改良ノ實行難ヲ論ジテ地方團體ニ課稅方法ニツキ自由ノ拘束が行ハルル爲メトフノハ幾分ノ眞理ハアル。<sup>(註六)</sup>

## 其二 雜種稅ノ各部的整理

(一) 雜種稅トシテ示サレタルモノノ中ニ就キ營業稅的ノモノハ勿論地方稅トシテ不適當デナイ。是非地方ニ之アルヘキモノデアル。營業ハ土地家屋ト共ニ特別利益ヲ地方團體ヨリ受クルガ故デアル。<sup>(註七)</sup>併シ此ハ道府縣營業稅ニ合併セシメラルヘキモノデアル。<sup>(註八)</sup>而シテ之ガ課稅方法ニツキ從來何等法律ニ標準ヲ示ス所ナク課率ニ制限モナキ所ヨリ、其課稅方法及課率ガ各地區々ニ亘リテ、全國ノ各地方間

12) Kaufmann, Kommunal финанzen. Bd. II. S. 114.

13) Henri d'Urclé, Le reforme de l'octroi. p. 138

的不公平トナルノミナラズ、一地方ノ内部ニモ不公平カ存スルコトナリ、特ニ他面、中以上ノ營業者ガ國家ノ制定シタル比較的公平ナル課稅方法ニヨリ、且ツ其附加稅ニモ制限ヲ加ヘラレ居ルニ對シテ、地方稅雜種稅ニ依ル所ノ小ナル營業者ガ却ツテ不公平且ツ過重ナル負擔ヲ爲スコトトナル。<sup>(註三)</sup>之ニツイテハ、一面國稅營業稅トノ關係ヲ斟酌シ、併セテ他方、現行各地ノ稅法ヲモ吟味シテ、適切ナル全國統一の標準課稅方法ヲ示シ、且ツ一應ノ課率制限ヲ定ムルコトヲ至當ト信スル。而シテ又營業稅のノモノノ中ニ就キ生産材料ニ課スルモノハ特ニ例之電柱稅軌道稅氣力電力車稅ニ至テハ特別營業稅トスル方ガ良カラウ。<sup>(註四)</sup>其他ノモノモ必スシモ不適當トハ認メナイガ、之ヲ一ノ營業稅ト解スルコトトナルト、明治四十一年法律三十七號二條ノ規定ニ牴觸スルコトニナル。此ニ對シテハ明文ヲ以テ除外スヘキモノデアル。

(註一)此點ニ關スル一ノ説明方法ニヨレバ各人ハ給付能力ニ應スル負擔ヲ爲スノ外地方團體ノ給付ニヨリ、或財産部ノ收益又ハ價值上騰ニヨル財産増加ヲ受タル人ハ此利益ノ割合ニ應シテ負擔ニ任シナケレハナラヌトイヒ、他ノ説明方法ニヨレバ地方團體ノ地方的繁榮事務ノ爲メニ管内ノ土地家屋營業ニ利益ヲ與フルニヨリテ、一般的給付能力ノ標準以外ニ、給付能力ヲ持ニ進捗シタル程度ニ應スル標準ニヨリ租稅ヲ分配スヘキモノデアル。<sup>(註五)</sup>到ル處地方ニ營業稅が行ハルルコトナ

<sup>14)</sup> Friedberg, Die Besteuerung der Gemeinden. S. 10.

<sup>15)</sup> Kaufmann, a. a. O. S. 117-8.

<sup>16)</sup> Bilinski, Die Gemeindebesteuerung und deren Reform. S. 240. <sup>17)</sup> Most, Die deutsche Stadt und ihre Verwaltung. I. S. 63. Theisen, a. a. O. S. 63. <sup>18)</sup> Kaufmann, a. a. O. S. 121. Klose, a. a. O. S. 182-4. Dawson, Municipal life and government in Germany. p. 411-3. <sup>19)</sup> Döpner, Geschichte der württembergischen Kommunalsteuerreform 1903. S. 27

ル。びりんすきカ營業稅ハ地方ニ取り不適當トイフノハ當ヲ得ナイ。<sup>162)</sup>

地方特別ノ營業稅トシテハ普魯西ニテハ市町村ニ特別營業稅モ許サルガ、尙此外、酒屋ヨリ拂フヘキ經營稅即チ免許稅ガ郡ニ交付セラレ、市町村ガ此ニ附加稅ヲ課スルカ、又ハ郡ニ屬スヘキ其豫算額ナ之ニ交付シテ市町村固有ノ經營稅ヲ課スルヲ得ルコトヲツテ居ルガ、<sup>163)</sup>ゆるてんべるひデモ市町村稅ノ主要ナルモノハげまいんでんとイフテ土地家屋ト共ニ營業ニ課スルモノデアルガ更ニざくせんデハ居酒屋稅ガ重要ナル發達ヲ遂ケテ居ル。<sup>164)</sup>英國ニテハ一八八八年ノごつしにんノ地方稅改革案ノ中ニハ料理屋麥酒屋等ノ免許稅ガアツタガ、今日モ地方稅勘定ナルモノノ中ニ酒類販賣免許稅ヨリノ定額交付金ガアル。<sup>165)</sup>倫敦ニハ又市場稅ガアル。<sup>166)</sup>佛國ニテモ營業稅ノ附加稅ガ存スルガ、市場稅屠畜場稅等モアル米國ニテハ營業稅ハ地方稅トシテ重要ナルモノデ、尙ニ重要ナルハ矢張り酒類賣却ノ許可ヲ受タル商店ニ課スルモノ并ニ諸種ノ娛樂物ニ課スルモノデアアル。諸多ノ市デハ又特殊ノ職業例之競賣人、質屋ニ稅ヲ課スル。例之紐育ノ如シ紐育デハ又渡船經營者ヨリ報償金ヲ取ル。之ヲれんミトイツテ居ルガ、實ハ市ガ之ニ資本ヲ下シテ居ラヌカラ一ノ稅トイツテ賣イ。市場ニモまーけつミれんつえんミふいーすトイフガアル。此ハ市場稅ニ外ナラナイ。<sup>167)</sup>

尙ホ漁業稅ハ獨逸デハざくせん、えんるさずろートリんげんニアリ佛國ノ巴里ニモ川漁業稅ガアル。<sup>168)</sup>溫泉場稅ガ獨逸ニハ往々ニシテくーあたくすトイフ名ニ於テ見出サル。<sup>169)</sup>

(註二)此點ハ小林博士モ同見。<sup>170)</sup>

(註三)特ニ例之料理屋ノ如キ大ナルハ國稅營業稅ニヨリ課稅セラレ小ナルガ地方雜種稅ニ來ルコトトナル(營業稅法十條明治四十一年三月法律三十七號地方稅制限ニ關スル件二條)

20) Neumann, Zur Gemeindesteuerreform in Deutschland. S. 206-212. 21) Lange, Local taxation in London. p. 2. 22) Wright and Hobhouse, Local government and local taxation. p. 155. 23) Department of Commerce and Labor, l. c. p. 73. 24) Ville de Paris, Budget de l'exercice 1912. p. 12. 25) Ville de Paris, l. c. p. 19-27. 26) Americus, Municipal taxation in the United States. (in The Local Government Review. Vol. III, No. 15, p. 109.) 27) Durand, The finance of New York City. p. 230. 28) Durand, l. c. p. 226-7.

(註四)米國ニ通例ナルガ如キ公益會社税的ノモノトスヘキデアラウ。後ニイフ消費税トシテノ電氣税  
瓦斯税等ハ又別ニ存在スルコトが出来得ル。<sup>32)</sup>

(二)雜種税ノ中デ使用税的ノモノガ最重要ナル地位ヲ占ムルコト上說ノ如クデ  
アルガ、此ハ前ニモイフ如ク一ハ國家ガ使用税ヲ殆ト專ラ地方ニ任カシテ居ルノ  
ニ因ルノデ、此事ハ本税ノ性質上強チ不當デナイ、必要ナルダケデハ國税トシテモ  
差支ハナイガ、ヨリ多ク地方税ニ適當シテ居ル<sup>(註五)</sup>此ガ税目到底列舉シ盡クスコト  
困難デ例示ノ外ハナイガ其ニシテモ國家ノ法律ニ今少シ多ク例示スベキデアル  
其ハ又各地ニテ取捨選擇ノ外ハナイガ、併シ賦課方法ノ大體ノ標準ダケハ法律ヲ  
以テ定メラルルコトガ必要デアリ、又課率ノ一應ノ制限モ必要デアル。其税率ガ物  
ノ種類ノ必要的ナルト奢侈的ナルトニヨリ差等ノ附セラルヘキコトトハイフ迄モ  
ナイ。特ニ船、車、自轉車、自動車、就中船ノ如ク可動的デ各地方ヲ轉々スルガ如キモノ  
ニ至テハ、各地方ニテ税率ニ餘リニ甚シキ懸隔ノアル場合ニハ脱税ノ目的デ故ラ  
ニ税率ノ低キ地方ニ船籍ヲ置クモノガ頻出スルコトニナリ、隨テハ正直ナル者ト  
不正直ナルモノトノ間ニ不公平ヲ生スルコトニナル。デ少クトモ此種ノモノダケハ  
全國統一税率ト爲スコトガ嚮ムヘキデアル。少クトモ差異ノ少キコトガ望マシイ。其

29) Dawson, l. c. p. 417. 30) Department of Commerce and Labor, l. c. p. 24.

31) Dawson, l. c. p. 416. 32) 小林博士、前出492. 33) Americus, l. c. p. 110.



他ノモノニ至テハ地方事情又ハ必要ニ從ヒ稅率ニ等差アルモ太シキ不都合ハナイ。

(註五)かうふまんハ使用稅例之犬船車娛樂稅ナ地方團體ニ歸スル之ニヨツテ人の課稅ノ一般給付能力ノ正當ナル捕捉ニ對スル不公平ヲ平準スル勸アリト爲ス<sup>34)</sup>びりんすきモ亦々特ニ奢侈稅ヲ大都市ニ歸スル但シ中以下ノ市ニ對シテハ此ガ價值小ナリトイフ<sup>36)</sup>

一般—英國ニテハ十三四世紀頃ニ不動產課稅ノ代リニ專ラ動產稅ガ行ハレ、農民ニハ其家畜、農具、穀物及其他ノ土地產物ニヨリ、市民ニハ其家具、貨幣及商品ニヨリ課稅シタコトガアルトイフ今日ハ英國ニテ不動產上ノれゝミガ重キヲ成スコト上、記ノ如クデアルガ、尙ホ地方稅勘定ノ中ニ可動のナル額ノ狩獵、犬、紋章、男僕、動力車及其他ノ車、免許稅ノ交付ガアル<sup>35)</sup>

犬稅—獨逸ニテハ此ガ最ヒロク行ハルル<sup>37)</sup>普魯西然リ但タばいゐるんデハ此ガ國稅トナリ、市町村ハ其收額ノ半分ヲ受ルコトトナツテ居ル<sup>40)</sup>ざくせんデハ重要デハナイガ廣クニハ行ハレテ居ル<sup>41)</sup>ゆるてんべるひニテモ以前ハ市町村ガ國稅犬稅ニ附加稅ヲ課スルコトトナツタガ一九〇三年ノ改正ニヨツテ全ク市町村ニ任カサルルコトニナツタ<sup>43)</sup>英國ニテモ一八八八年ノごつし<sup>42)</sup>らんノ地方稅改革案ノ中ニ犬稅ガアツタコトノ外現ニ地方稅勘定ノ中ニ此ガアル。佛國ニテモ市町村ハ犬稅ヲ課スルコトヲ得ル<sup>45)</sup>。奧國ノ市町村ニモ此ガ行ハル<sup>46)</sup>。

家畜稅—獨逸デハめくれんぶるひしゆえりんニアル此處ニテハ各種ノ家畜ニ賦課スルコトガ行ハル<sup>47)</sup>英國ニテモ此ガ課セラレタコトガアル。十四世紀ノ初頃ニ定メラレタル寺稅ちやゝちれ<sup>48)</sup>一ミハ各寺區住民ガ其寺ヲ修繕スル爲メニ其寺區内ニモツ所ノ土地及其ノ此ニ於テ所有スル動物ノ數ニ應ジテ負擔シタ所デアルトイフ。

狩獵稅—獨逸デハざくせん、えるざすろゝミりんげんニアル英國デハ一八八八年ノごつしえん地

34) Kaufmann, a. a. O. S. 120. 35) Bilinski, a. a. O. S. 313-4. 36) Bilinski, a. a. O. S. 321. 37) Row-Fogo, An essay on the reform of local taxation in England, p. 31-2. 38) Wright and Hobhouse, l. c. p. 155. 39) Klose, a. a. O. S. 144. 40) Dawson, l. c. p. 416. 41) Neumann, a. a. O. S. 212-7 247. 42) Döpner, a. a. O. S. 31. 43) Döpner, a. a. O. S. 44. 44) Lange, l. c. p. 2. 45) Grice, National and local finance, p. 155. 46) Department of Commerce and Labor, l. c. p. 5. 47) Birnbaum, Die gemeindlichen Stenorsysteme in Deutschland. S. 369. 48) Cannan, The history of local rates in England. p. 15.

方稅改革案ニ銃稅ガアツタ。<sup>50)</sup> 佛國巴里ニモ狩獵稅ガアル。<sup>51)</sup>

船車馬稅——獨逸デハぶれめんニ車馬稅ガアル。<sup>52)</sup> 佛國巴里ニハ自轉車稅、自動車稅、乘馬稅、馬車、電車、公輸機關稅、川船稅ガアル。<sup>53)</sup>

玉突臺稅俱樂部稅——獨逸デハぶれめんニ玉突臺稅ガアル。<sup>54)</sup> 巴里ニハ玉突臺稅俱樂部稅ガアル。<sup>55)</sup>

劇場其他娛樂場切符稅——此ハ獨逸ニテハバーでんへつせん以外ニハ一般ニ行ハルル。<sup>56)</sup> 普魯西ニテハ此ガ廣ク市町村稅トナリざくせんデハ大都市ヨリモ却テ中小市ニテ重キヲ成シ且ツ廣ク行ハルトイフ。<sup>58)</sup> 佛國巴里ニモ此種ノ稅ガ存スル。<sup>59)</sup>

僕婢稅——英國ニテ一八八八年ノごつしえん案ノ中ニ男僕稅ガアツタ。<sup>60)</sup>

### (三) 勞働收益稅 (Einkommensteuer) ニ屬スル雜種稅ノ中ニ就イテモ理髮人稅、遊藝師匠稅、遊藝稼人

稅、相撲稅、俳優稅、幫間稅、藝妓稅、妓夫稅、酌人稅ノ如キ娛樂ニ關係アル者ニ課スル稅ハ夫ノ營業稅的ノモノニ於ケル娛樂關係營業ト其ニ好箇ノ地方稅デ、獨逸等ニ於ケル娛樂稅ニ該當スル。勤勞所得者ハ給付能力小也トイフ一般の原則ハアルガ、此等ノ稼業ニ從事スル者ハ其ノ一旦負擔シタル租稅ヲ他人ニ轉嫁スル可能モ大デアリ、給付能力ノ大ナル特例ヲ成ス所故此カ特段ナル課稅モ敢テ差支ハナイ。唯ダ仲仕稅、屠手稅、賃乘稅、駄賃稼稅、運送夫稅ニ至テハ、就レモ下級ノ勞働者デ、他ニ負擔ヲ轉嫁スルコトノ困難ナル地位ニモアルカラ、一般原則ニ從ツテ、給付能力小ナルモ

49) Dawson, l. c. p. 417. 50) Lange, l. c. p. 2. 51) Department of Commerce and Labor, l. c. p. 24. 52) Birnbaum, a. a. O. S. 388. 53) Department of Commerce and Labor, l. c. p. 24. 54) Birnbaum, a. a. O. S. 389. 55) Department of Commerce and Labor, l. c. p. 24. 56) Dawson, l. c. p. 413. 57) Klose, a. a. O. S. 143-4. 58) Neumann, a. a. O. S. 242. 59) Department of Commerce and Labor, l. c. p. 24. 60) Lange, l. c. p. 2.

ノトシテ免除スヘキモノデアル。其收額モ大クナイカラ、他種ノモノニ於ケル増徴ニヨリ其缺陷ヲ補充スルコトモ大シテ困難デアルマイ。又スヘテ此獎勵收益税ニ於テモ、賦課方法ノ標準ヲ國家ニ於テ示スヲ至當トスル。其モ上級者及下級者間ノ等差ヲ著シクシテ、下級者ノ負擔ノ過重トナラザルコトニ最意ヲ用ユヘキデアル。

(註六)此種ノ税ハ外國ニモ例ハ少イ。獨逸ノ市町村ニテハ今日ゆるさするーとりんげんニアルノミデアル<sup>61)</sup>。ゆるてんべるひニテモ一九〇三年ノ租税改革前マテハ勤勞及職業所得ノ所得税ガアツタガ此時以來廢止シタ<sup>62)</sup>。

(四)其他ノモノニアツテハ就中(イ)所得税<sup>註七)</sup>ハ國税、所得税、附加税ノ外ニハ存立セシムヘキモノデハナイ。戶數割デモナケレバデアルガ、此ノ存スル上ニ特別所得税ニテ小民ヲ苦ムルノハ恕スルコトヲ得ナイ。切角國税ニ於テ小所得者ヲ特ニ保護シヤウトシテ免税點ヲ引上ゲタル其後ヲ課税誅求スルノハ當ヲ得ナイ。國税免税點ノ引上ノ爲メ、地方ニ於テ一部下級ノ所得ニ於ケル所得税附加税ヲ失フタデハアラウカ、其ハ他ノ方面カラ補足スヘキモノデアル。(ロ)段別税ハ土地ニ課税スルノニ、地價ニ依ル代リニ段別ニ依ルモノデ、課税方法トシテハ地租附加税ヨリモ一層粗笨デアル。不公平デアル。探ルヘキモノデハナイ。(ハ)家屋税ノ外ニ建物賃貸税ヲ探

61) Birnbaum, a. a. O. S. 149-150.

62) Döpner, a. a. O. S. 28. 44.

ルノハ二重課税デアリ、家屋税ノ代リニ建物賃貸税ヲ課シテ隨テ自家用家屋ノ收益ヲ課税セザルノモ不公平デテル。建物賃貸税ハ宜シク家屋税ノ中ニ包含セシムヘキモノデアル。家屋税ハ元來地方税トシテハ薦ムヘキモノデアルガ、其ノ既ニ此アル以上ハ、建物賃貸税ハ不要不當デアル。<sup>(註六)</sup>貸金税<sup>(註七)</sup>ニ至テハ國税ニ資本利子税ヲ有セザル日本ノ現狀デハ、幾分其缺陷ヲ補フヤウニモ見ユルガ、資本ノ中貸金ノミニ課税シテ貯金、有價證券等ヲ對等ニ扱ハナイノハ不公平デアリ、此等ヲ包含シタルモノトスルト、其ハ全國統一のニ國家ノ手ニヨツテ制定シテ、地方トシテハ此ニ附加税ヲ課スルコトトスヘキデアル。<sup>(註八)</sup>は不動産取得税ニ至テハ地方税トシテ最適當ナルモノデアルガ、<sup>(註九)</sup>此ハ市町村ノ歩一税ト一緒ニシテ特別ノ税目トシテ存置スヘキデアル。<sup>(註十)</sup>消費税<sup>(註十一)</sup>ハ一般原則トシテハ地方ニ不適當ト認メラレテ居ル。日本ガ大體之ヲ探ラヌノハ適當デアル。唯ダ此雜種税ノ中ニ發達シタル屠宰税<sup>(註十二)</sup>ニ至テハ外國ニモ例多キ所デアリ、地方消費税ノ中デハ最收額ノ豐富デアリ且ツ堪エ易キ所ノモノノ一デアルカラ、甚シク不都合トハイヘナイ。竹木材川下税ノ如キハ就レ其豐富ナル産地デ行ハルル所デアリ、工業品ニ課スル同種ノ消費税ト異ツテ、爲メニ其地ノ産業ヲ壓迫スル程ノコトハナク、地方ニヨツテハ好箇ノ税デアル。<sup>(註十三)</sup>更

ニ建物建築税トハ面白キ税デアル。生産的目的ノ爲メニスルモノ、例之工場等ノ建築ニ之ヲ課スルハ不得策デアラウガ、住屋ヲ建ツル場合ノ如キニ課スルノデアレバ、矢張り之ヲ行フニ於テ其人ニ或餘裕ヲ生シタルコトヲ意味シ此機會ヲ捉エテ課税スルコト少シモ不當デナイノミナラズ、之ニヨリ幾分贅澤ヲ抑ユルコトニモナル。上記何レノモノモ、其ノ存置サルルタケデハ、國家ノ一般的賦課標準ノ制定ガ望マシイ。此外日本ニハ娛樂税ガ凡ヘテ營業税的ニ課セラレテ居ルガ、外國ニ例ノ多キ通り切符税トシテ即チ消費税的ニ課スルノモ至極便利デ多收タルコトヲ得ル。前者ト並ビ行フノモ可カラウ。

(註七) びりんすきハ所得税ハ地方税トシテ適當セズトイフガ所得税自身ガ地方税ニ不適當トイフノハ極端デアル。地方税ニモ人的給付能力ニ應スル所得税ハ必要デアル。<sup>63)</sup>

(註八) 資本利子税的ノモノハ地方税トシテハ例ハ多クナイ。デウてんべるひノ地方税ニハ此ガアル。其他ヘつせん、あんばるさ、えんざするーそりんげん、ばいえるん、ばーでんニモアル。<sup>64)</sup>

(註九) かうふまんモ地方團體ニ土地交通税ヲ課スル<sup>65)</sup>——獨逸ノ地方ニテハ普魯西ニハ不動産移轉税及土地増價税が行ハルル<sup>67)</sup>——でん、ざくせん、デウてんべるひ、ばいえるん等ニモ行ハルル特ニデウてんべるひニテハ特段ナル許可ヲ得テ、國稅タル土地移轉税ニ附加税ヲ課スルコトナツテ居ル<sup>69)</sup>。ざくせんニテハ殆ト大抵ノ市町村ニ移轉税ガアルトイフ。<sup>70)</sup>——佛國ニテハ縣ニハ國稅附加税カ重要デアルカ其他ノ收入ノ中ニ、公共工事ニヨリ利益ヲ受クヘキ箇人ヨリノ負擔中出ナル項目

63) Bilinski a. a. O. S. 226-239.

64) Döpner, a. a. O. S. 28. 44.

65) Birnbaum, a. a. O. S. 89-91. 134-5. 147-9. 193-5. 262-5. 66) Kaufmann, a. a. O. S. 119. 67) Klose, a. a. O. S. 153-6. 156-170. 68) Most, a. a. O. S. 63. 69) Döpner, a. a. O. S. 31. 44. 70) Neumann, a. a. O. S. 232.

ガアル此ハ税デハナイガ、移轉税ト同關係ニ立ツ。又市町村ニ登録税ノ附加税ガ行ハルル<sup>72)</sup>。米國デハ到ル處ニ特別課徴ナルモノガ行ハルル<sup>73)</sup>。例之紐育デハ此ガ重要デアルトイフ<sup>74)</sup>。米國デハ(註十)かうふまんハ此ガ給付能力ニ反スル。之チモツ國ノアルノハ單ニ歷史的關係ニ出ルカ財政止ムヲ得ザルニ出ツル。唯々一般の享樂品、特ニ酒精酒類煙草ニ課スルモノハ一般の必需品ニ課スルモノホドニ非難セラレナイガ、而モ此ニ國税ノアルコトヲ顧ミ、地方税トシテハ出來ルタケ之ヲ制限シ、寧ろ免許税ヲ以テ充タスヘキモノデアラウトイフテ居ル<sup>75)</sup>。びりんすきモ亦之ヲ排斥ス<sup>76)</sup>。佛國ニハ元來人望アル税デハナイガ古來入市税ガ市町村ニテ重キヲ成シ、一八九七年以來此ガ廢止ノ機運ニ向ヒツツアルガ尙且ツ一八九八年一月一日之チ有テル市町村千五百〇九ナリシモノ一九〇七年七月一日ニハ千四百八十八モ残り、即チ此間ニ二十八ノ市ガ全ク入市税ヲ廢止シ、八ノ市ガ諸入市税ヲ止メ唯ダ酒精ノダケヲ維持シ、他方二十五市ガ新ニ入市税ヲ設タルコトナリ、其多クハ酒精ノデアアル<sup>79)</sup>。巴里ニテハ特ニ此ガ重要ナル收入ヲ成シ、一八〇一年ニ同市ノ經常費一千二百萬法(一人當リ二十三法)ニ對シ入市税一千〇九十三萬六千法(一人當リ二十法)ナリシトイフニ、一八九九年ニハ經常費三億〇四百三十七萬二千六百六十九法(一人當百十九法九十五)ニ對シ入市税一億五千七百八十一萬〇〇十五法(一人當リ六十二法二十一)トナリ、入市税ノ地位ハ低下シツ、ハアルガ、尙ホ經常費ノ過半ヲ充タシツツアル所デアアル<sup>80)</sup>。英國デハ入市税ハ英蘭ニハ未ダ嘗テ行ハレナイ。唯ダ蘇蘭ニハ此ガ嘗テ採用セラレベチ<sup>81)</sup>。かすこむスト稱セラレタガ、今ハ殆ント全ク消失シテ唯ダ極少數ノ處ニ殘存スルノミデアアル。又蘇蘭ノ市ニハ麥酒税ヲ有ツタコトハアルガ、今ハ消失シタ<sup>82)</sup>。但ダ今日英蘭ノ地方税勘定トイフ中ニ麥酒及火酒税ノ定額交付金ガアル<sup>83)</sup>。獨逸ニテモ從來可ナリ入市税ガ特ニ西及南ノ方ニ行ハレタガ、一九〇二年ノ關稅法ニヨリ一九一〇年四月一日

71) Grice, l. c. p. 146. 72) Ville de Paris, l. c. p. 15. 73) O'meara, Municipal taxation at home and abroad. p. 153-9. 74) Durand, l. c. p. 201. 75) Kaufmann, a. a. O. S. 121. 76) Bilinski, a. a. O. S. 210-226. 77) Desbats, Le budget municipal. p. 94. 78) Montheuil, Faut-il supprimer l'octroi? p. 35. 79) Montheuil, l. c. p. 35-7. 80) Cadoux, Les finances de la ville de Paris de 1798 à 1900. p. 675. 81) Row-Fogo, l. c. p. 56. Turner, History of local taxation in Scotland. p. 116. 117. 119-122. 131-150. 249. 82) Turner, l. c. p. 117. 137-43. 249.

以降穀物、豆類、穀粉、麵粉、家畜肉、脂肪品ノハ廢止サルルコトナツタ。而モ今日尙ホえるさする。一、  
りんげんノ市町村ニハ佛國時代ヨリノ傳來ニ從ヒ其收入ノ一大部ヲ諸種ノ入市税ニヨリ擧グル所  
デアル。例之みゆゑるはうぜんハ其三分ノ一ずらする。ハ殆ンド二分ノ一、めつつハ三分二以  
上ヲモ擧グル之ニ對シ多クノばいえる。ノ市町村デハ百分十、普魯西ノ大都市デハ一層少ク、其租  
税收入ノ百分一乃至三ニ止マル。之ヲ別トシテ普魯西ニテ地方消費税トイヘハ麥酒税ニ止マル。此  
ニ於テハ地方ハ瓦斯電光税ヲ課シナイコトナルノニ、<sup>(85)</sup>デゆるてんべる。ノ市町村ニテハ之ヲ課  
スルヲ得ル。其他麥酒、肉税ガアル。さくせんニテハ麥酒ノ外ノ消費税ハ殆ド全ク之ヲ缺ク。<sup>(86)</sup>  
(註一) あんりたるくれニヨレバ入市税中最屈伸力アリ且ツ最多收ナルハ肉類、燃料、特ニ石炭、飲料及  
酒類ニ課スルモノデアル。例之そあつせん市ニテ此等ノモノニテ全入市税ノ百分五十七、餘ヲ成シ、  
他ノ佛蘭西ノ市ニテモ大同小異デアルト。<sup>(87)</sup>獨逸デハ一八七三年ノ普魯西法律デハ屠宰税ガ地  
方税ニ委カサレタガ、今ハナクナツテ獨逸デハ纔カニめくれんぶるひしゆり。ニアルノミデアル。<sup>(88)</sup>  
(註二) 若モ地方費ノ爲メニ使用サルヘキ消費税ハ其地方團體ノ利益ニ浴スル消費者ニヨリ專ラ支  
持サレザルベカラズトイフコトガ正當トスレバ此税ハ不當トザルガ、他ノ地方團體ノ人ニ負擔セ  
シメ得ル以上ハ之ヲ負擔セシメタトモ差支ハナイ。

## 結 論

以上要之日本ノ雜種税ハ其地方財政上ノ地位ハ高クハナイガ、併シ之ヲ分析シ  
テ見ルト百ニモ近キ雜多ノ税カラ成立ツテ、殆ンド有ラユル種類ノ税種ヲ網羅シ

83) Wright and Hobhouse, l. c. p. 155.

84) Klose, a. a. O. S. 140. Dawson, l. c. p. 410. 85) Dawson, l. c. p. 411.

86) Klose, a. a. O. S. 140. 87) Klose, a. a. O. S. 142-3. 88) Dawson, l.

c. p. 416. Döpner, a. a. O. S. 30. 40. 89) Döpner, a. a. O. S. 30.

90) Neumann, a. a. O. S. 247. 91) Henri d'Urcle, l. c. p. 133.

92) Friedberg, a. a. O. S. 98. 93) Birnbaum, a. a. O. S. 369.

94) Labussière, Des droits d'octroi. p. 54.

テ居ルノミナラズ、各地方ニテ採ル所ノ稅種並ニ課稅方法ガ頗ル區々ニ亘リ、課率モ地方ニヨリ高低等差著シク、法律上ノ制限ナキ爲メ間々其ガ頗ル高ク、爲メニ不公、平、過重、煩雜等ノ弊害ヲ見ル。地方稅ガ各地方ノ事情ニ應ジテ多少別異トナルノハ止ムヲ得ナイガ、餘リニ亂雜ナルノモ決シテ宜シクナイ。一應全國ニ統一アル標準規定ヲ作り、之ニヨリ或度マテ統一ヲ行フノミナラズ、分解淘汰ヲモ行ツテ、以テ雜種稅ノ整理ヲ計ルコトガ肝要デアル。斯ノ事業ハ實際上ニ重要ナルコトハ勿論デアルガ、其錯雜シタルモノダケニ學問上カラシテモ非常ニ興味ノアルコトデアル。